

護身術

防犯のための護身術

犯罪被害にあわないためには、子ども自身の防犯能力を高めることも必要である。

身体的な武道の心得よりも、むしろ防犯への知識や知恵で犯罪被害を回避あるいは防衛する「知的護身術」を身につけることが大切である。

以下に記すのは、子どもが連れ去り等の被害にあいそうになったときの対策である。父親などが悪役になって子どもと実際に練習すると効果がある。

(『こどものあんぜんどくほん/太陽出版』より)

無視する、断る

不審な人が近づいてきて、何かをくれると声をかけてきても、相手のほうを見ないで断る。聞こえないふりをしてよい。

相手との距離をとる

相手が一步踏み込んでくることを考えて、腕の長さの2倍以上離れる。どれくらいの距離なら捕まえられるか、何度か試してみる。

走って逃げる

変だと思ったら、すぐに走って逃げる。「相手に失礼かも、自分の勘違いかも」などと考えずに、直感で判断すればよい。

大声を出す

危険を感じたら、「助けて!」「おまわりさん!」などと大声を出す。いざとなると声を出せないことはよくあるので、日ごろから腹から声を出す練習をしておく。

しゃがんでから逃げる

抱きつかれそうになったら、地面に手をつくように勢いよくしゃがむ。そこから立ち上がりながらダッシュで逃げる。これは「タッチ&ゴー」と呼ばれる逃げ方で、大人との身長差を利用した有効な逃げ方である。

手を組んでしゃがむ

相手に抱きつかれたら、手首を捕まれないように両手を「お祈りの形」に組み、しゃがみこんで腕か

らぬける。そのあとはすぐに走って逃げる。

手をつかまれたら、ひねってほどく

つかまれた自分の手を相手の手の甲の方向へひねるようにしてふりほどく。外側からつかまれたら外側へ、内側からつかまれたら内側へひねる。とっさに行えるようになるまで練習する。



仰向けになって騒ぐ

どうやっても相手につかまりそうになったときの最終手段。寝転んで手足をばたばたさせて騒げば相手があきらめる可能性があるし、周囲の大人がその異変に気づくこともある。

◆車に乗せられそうなときは…

自力で逃げるチャンスは、車に乗せられる瞬間までである。車に乗せられそうになったら、大声で拒否の言葉を叫び、帽子やかばん、靴などを路上に落として、少しでも手がかりを残す。

もしも車に乗せられてしまったら、それ以上犯人を刺激しないようにすることが大切である。車内で騒いだり、走っている車から飛び降りたりするのは非常に危険である。

自治体の事例

群馬県では、幼稚園、保育園、小中学校などを対象に、子ども向け防犯出前講座を開催している。群馬県治安回復対策室の職員(防犯設備士)と高崎警察署員、警備会社社員などが講師となり、誘拐・連れ去り防止や危険回避の知恵、簡単な護身術などについて1時間程度の講演をする。

また、高崎市のホームページでは、小学校中学年から高学年向けの簡単な護身術の一部(「腕をつかまれた場合」「後ろからつかまえられる場合」「相手が前から来た場合」)を映像で紹介している。

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/soshiki/koutsu/simin/kodomo2.htm>